



第47号



# ECOMAIL

## 関西 ECOMAIL

関西支部会員のみなさまに、ワークショップのお知らせや環境教育に関わる情報の交換をしていただくために発行しています。  
 また、学会員以外で環境教育に関心をもっておられる方や実践をされている方も、広くコミュニケーションを図りたいと思っています。  
 日本環境教育学会会員のみなさまには支部会費、会員でない方には購読費として、年間1500円を振り込んでください。ワークショップの案内及びこの関西ECOMAIL(年約6回発行)を送らせていただきます。  
 (通信費振り込み先: 日本環境教育学会 関西支部 郵便振替口座  
 00990-5-37886)

## 日本環境教育学会 関西支部 第7回研究大会 来週に迫る!

1998年12月12日(土) 大阪教育大学 天王寺キャンパス(天分)

9:00 受付開始 (JR環状線寺田町駅下車西へ徒歩3分)

10:00~12:00 研究発表 2会場(27,28講義室) 1件20分

12:00~12:40 昼食(40分)

12:40~14:00 研究発表 2会場(27,28講義室) 1件20分

14:10~16:40 シンポジウム(12講義室)

基調講演: 横村久子氏(奈良県立商科大学)

「地域活動と学校教育をむすぶ環境教育」

パネルディスカッション: テーマ「地域と学校をむすぶ環境教育」

パネリスト: 横村久子氏・山中多美男氏(淡路・啓発地域社会教育施策推進連絡会)

牛尾巧氏(川西市教育委員会)・笠原英俊氏(羽曳野市立高鷺北小学校)

秦 誠氏(神戸市・森林整備事務所)

コーディネーター: 藤岡達也氏(大阪府教育センター)

16:40~17:20 特別講演: 鈴木善次氏(大阪教育大学)

「環境教育と”総合的な学習の時間”」

17:30~18:00 第4回支部総会(30分) (議案書は当日配布します)

18:10~20:00 懇親会 食堂2F会議室

参加費: 一般1,000円、学生500円 懇親会: 一般3,000円、学生1,500円

### 第47号 目次

- ・第7回研究大会一般講演プログラム ... 2~3
- ・雑壇 関西支部2000-1年(赤尾整志) ... 4~5
- ・第70回 関西ワークショップより(塩川哲雄) ... 6~7
- ・津崎優子の詩のコーナー ... 7
- ・ネットワーク ... 5, 8



## A会場 (28講義室)

- 10:00 蛍光測定による天然水の簡易水質測定を試み  
大阪府教育センター 山本勝博
- 10:20 河川等の水質調査を通じての環境学習  
－化学IIにおける課題研究の展開事例として－  
大阪府立貝塚南高等学校 深野哲也  
大阪府教育センター 山本勝博
- 10:40 簡易な水質浄化器の製作と水質の分析  
大阪府立北千里高等学校 塩川哲雄  
大阪府教育センター 山本勝博
- 11:00 小学校環境教育における校区の水調べ活動の実践  
－総合的な学習の単元構成－  
堺市立金岡小学校 木村 貴  
大阪府教育センター 山本勝博
- 11:20 初瀬川（大和川の源流を求めて）の水質調査3  
大阪市立矢田南中学校 井上晴貴  
大阪府教育センター 山本勝博
- 11:40 池沼沿岸帯の水質浄化の研究  
－堺市周辺のため池の水質評価－  
大阪府立大学農学部 長尾寛行  
大阪府立天王寺高等学校 橘 淳治  
大阪府立大学農学部 小山修平
- 12:00 昼休憩
- 12:40 環境を窓口とした総合的な学習の指導  
堺市立金岡南小学校 高田真美子
- 13:00 子どもたちが知らないきれいな『近木川』をもう一度  
貝塚市立西小学校 高橋寛幸  
大阪府教育センター 山本勝博
- 13:20 高校生に「環境科学」を開講して  
兵庫県立香寺高等学校 田先崇志
- 13:40 移動

## B会場 (27講義室)

- 10:00 粉じんカードを使った、校区の粉じん調査  
大阪教育大学大学院・門真市立第三中学校  
重藤英一
- 10:20 夢化学21・風の谷のナウシカを授業にとり入れて  
ー高校3年・環境教育へのアプローチ  
大谷高等学校  
大阪府教育センター  
高野裕恵  
山本勝博
- 10:40 動物園における環境学習  
大阪教育大学大学院  
大阪教育大学  
松本朱実  
鈴木善次
- 11:00 ケナフでつなぐ学校と地域社会  
大阪薫英女子短期大学  
松永三婦緒
- 11:20 土・水のパワー、中山桜台の未来を守る  
宝塚市立中山桜台小学校  
渡辺嘉寿美・高橋剛・田中敬子・船曳奈保子
- 11:40 環境文化学における総合化について  
グローバル環境文化研究所 福島 古
- 12:00 昼休憩
- 12:40 環境指標としての従属栄養細菌の教材化  
大阪府立天王寺高校  
大阪府教育センター  
橘 淳治  
山本勝博
- 13:00 古代人の知恵に学び飼育し栽培し生産し、科学する子らがつくった地  
域ぐるみの環境学習と地域エコふれあい祭り  
ー地域とともに創り出す総合学習の実践研究ー  
大阪音楽大学  
椋代惟親
- 13:20 子ども参加のまちウォッチング  
ー学校・公園を結ぶ、遊びとビオトープ・ネットワークー  
淡路・啓発地域社会教育施策推進連絡会  
村井保夫・柿野久・森川嘉子・西村元秀・野島政和・永橋為介
- 13:40 環境教育教材としてのビオトープの制作と研究  
大阪府立城山高等学校  
中村和幸

## 関西支部 2000 - 1 年

日本環境教育学会では今、全国の各地に研究会や支部をつる動きが活発になってきている。支部づくりを振り返って面白いことには、学会発足と同時に関西支部をつくったが、学会設立以来今日まで関東支部ができなかったということだ。そしてそのことは、自然な成り行きであったと思っている。なぜならば、10年前に学会としてグローバルに環境教育に取り組むには、東京圏にはそれなりのエネルギーが備わっていたが関西にまでは及んでいなかった。だから関西にももうひとつのエネルギー源をつくる必要があった。それが関西支部だ、と私は思っている。今、各地域の支部や研究会づくりが盛んになってきたことは、この10年間の学会の事業をとおして、いろいろな地域で学会活動のできるエネルギーが蓄積された証拠であると考えられる。そうだとすれば、日本環境教育学会にとって大きな成果が得られたと評価することができる。ただ問題は、そのエネルギーがこれからの環境教育にどう使われていくかである。気になることは、せっかく方々にできる支部が、学会本部を中心にしたヒエラルキーに組み込まれはしないかということである。現象的にせよもしそうになったら、学会そのものが時代に逆行することになるからだ。形式的にせよもし本部から支部費でも分配されるような事態になれば、それこそもうお仕舞いである。もちろん各地の今の動きは、そんな自己主張のできないものではない... と思っている。

さてよそのことの心配よりも、足元の関西支部はこのままでよいのだろうか。いまのところは日本環境教育学会唯一のもうひとつの顔として収まっているが、10年も経ったのだから様変わりしても不思議ではないと思う。つまり各地に支部ができかけているのだから、もう関西の支部はなくなってもよいのではないかと思ったりする。とはいっても、この10年の絆を捨てるという意味ではない。支部を支えてきた世話人会や研究会・ワークショップなどに参加した多くの人々の力によって、関西にしっかりとした環境教育の“地盤”が根付いたた現在、そろそろ大阪教育大学を足場にして掲げてきた“看板”は降ろしてもよいような気

がする。あえて行政区でいえば、滋賀・京都・三重・奈良・和歌山・大阪・兵庫などそれぞれの所にそれぞれの人が出て、それぞれの活動をちゃんとやっている。そんな存在を無理やりにひっくるめて「関西支部」などと呼ぶことはもう止めて、一度バラバラにしてはどうだろうか。ただしバラバラだから崩壊したということではない。関西支部という色ガラスを外すことによって、それぞれの地域の環境教育がものすごくはっきりと見えてくるような気がするのである。このようなひとつひとつの活動体が独自に運動している状況に、ドゥルーズ・ガタリのいう「リゾーム」（根茎と訳される）という概念を当てはめてみよう。つまり関西支部という1本の樹木で表されるイメージではなく、至る所に何本もの株が立ち上がってそれぞれの方向に成長している姿を想像してみるのである。強いて名付けるとすれば「リゾーム関西」、そんな気取った言い方も面白いかも知れない。ただ、そうなったときにちょっと心配なのは、それぞれが主体的であるためにかえって活動体がお互いにやっていることを見落としはしないかということである。そのためにはセンサー（センターではない）となる横糸が必要である。情報化が進んでいる今時ゆえ、いろいろな手段を駆使して初めにそのネットワークをしっかり作っておけば、それは可能であろうと思う。

仮に“リゾーム関西”なるものを動かすとすれば、きっかけづくりが大切である。奈良や、京都や、できるところから名乗りを上げて会員に呼びかけてほしい。そのときはみんながそこへ集まって行って、その環境教育を体験してみるのである。そんなふうな学会活動の新しいやり方を模索するには、2000-1年こそふさわしい年ではなかろうか。

(S. あかお)

問い合わせは：

フィールドソサイエター  
〒606-8421

京都市左京区鹿ヶ谷  
法然院町72-2

法然院森のセンター

TEL 075-752-4582

Fax075-752-4583

(毎週火曜日と

第一第三月曜日休館)

### オープンルーム

小学生以上、大人まで。

▷冬のきのご観察と、きのご染め

とき) 1月31日(日) 10時30分~15時

ところ) 森のセンター ※お申し込み下さい。先着順、定員15名。

持ち物) お弁当、水筒、タオル、作品を入れるビニール袋

参加費500円(材料費)

雨天でも行います。防寒・雨具、ご準備ください。



## 持続可能な価値観を形成する環境教育

(キーワード: 社会的背景・関わり・意思決定)

大阪府立北千里高等学校 塩川 哲雄

先日開催されたワークショップにおいて発表させていただきました。  
発表内容と討論で出された論点をまとめます。

- ・ 科学技術を価値中立なもので見ないで、社会的背景等を重視。
- ・ 市民の参加・多元的な価値観の時代。
- ・ 既存の価値観では解決しない問題が発生している。
- ・ STS教育(Science Technology and society Education)とは、  
「科学・技術・社会の相互の関連を考慮した授業」
- ・ 「総合的な学習」が打ち出された今日、STS教育や環境教育は、学校教育でますます必要とされる。
- ・ 社会と関わりを持った授業実践の要点は次のようなことである。  
持続可能な社会を実現するためには教育の役割は大きい。  
→ そのための教育は新しい意味での「社会変革」を視野に入れる必要。  
→ 授業で価値観の対立している現実の社会問題を扱うべきである。  
→ 水俣病のような重大な教訓を残した大事件から課題を学びつつ、  
→ 地域や地球規模の問題を自分の問題として考えるような授業実践。
- ・ 私たちの「壁」を乗り越えよう

(1)概念的障壁(conceptual barriers) , (2)後方支援的障壁(logistical barriers)

(3)教育的障壁(educational barriers) , (4)態度的障壁(attitudinal barriers)

- ・ 教員の成長についての研究には、次の5つの原理が必要である(I. Robotom, 1987)。(1)inquiry based (2)participatory and practice based

(3)critical

(4)community based

(5)collaborative

・ 壁は社会的に作られたものもあるが、教員が自分自身で作ってしまっているものもあるようだ。専門性に過度にとらわれることなく、一人一人の教員が持っている問題意識から出発して、今すぐにできることから積極的に取り組んでいくことが重要であろう。

・ 実践事例「水俣病を考える」

主な内容:生態系の概念・水俣病の概要・発生した社会的背景・胎児性水俣病患者の存在・出生前診断との現代的な関連・原因究明と企業個人の責任。

・ 原因を知った人はその情報をどのように扱うべきなのであろうか。

現代の社会で重要な情報公開・内部告発の問題との関連で考えたい。

発問例「きみのバイト先のガソリンスタンドまたは写真店で、有毒物質で汚れた廃液を密かに川に流せと命じられたらどうする？」

・ 責任問題については、国・自治体・企業・個人のそれぞれのレベル。

・ これからの課題

(1)個人的な取り組みを教科・学校全体へと発展させること。

(2)「教育の中立性」との関連。

できる限り広い範囲で情報を集めて教室で提示することが必要である

う。そして、たとえ強い信念が教員にあったとしても、考え方の押しつけをすることは慎まねばならない。

(3)成績評価法を更に研究すること。

1)分量が適当か。 2)内容が事実即しており、論理的か。

3)自分自身の意見か。 4)まじめに考えているか。

教員が個人的信念を持つことは良いし、それを授業の場で個人的意見として表明することもかまわないであろう。しかし、児童・生徒が社会的な価値判断(意思決定)をする際には、教員の個人的意見を押しつけるのは絶対に避けなければならない。

(4)環境問題を解決していく行動のプログラムを提示すること。

その活動によって着実な成果が実感できることが最も望ましい。

(5)学校が位置する地域の環境問題・社会的問題に関わっていくこと。

・資料

(1)「持続可能な価値観を形成する環境教育」理科の教育 '98年8月号

(2)「環境教育における教員にとっての障壁について」

日本環境教育学会第9回全国大会論文集 一般講演発表 C13 '98.5.23

(3)「STS環境教育教材『水俣病を考える』」

・議論で出された主な論点。

科学技術と価値観の問題。科学の問題として教えることが必要。

デカルトの分析科学と限界。新しい科学的方法が必要。

環境教育はどこまで環境をきれいにできるのか。カバーしきれぬのか。

科学技術はジレンマの積み上げだ。

社会的な価値の提示が必要。教育レベルと社会的な関わり。

教育によって環境を変えていくことができるか。

コンセンサスを作っていくこと。

価値と障壁についておもしろい。

STSや環境教育は、学際的で総合的なものである。

全体として見ること。

ものの見方、文脈が必要。

市民的に公認された価値として扱うことに可能性あり。

情報公開・人権・社会変革・民主主義。

以上。

ゴミってなあに

I

ねえ おかあさん

ゴミってなあに

だってこれ

さっきまで

にんじんや

じゃがいもだったのに

どうしてきゆうに

ゴミになったの

こんなにたのしい

おりがみあそびも

あしたは

ゴミに

なっちゃうんだね

津崎優子詩集『水の色は地球の色』より



# ネットワーク

若干名、余裕あります！お申し込み下さい（先着順）

## ★エコツアー★

### ▷化石に見る琵琶湖の生い立ち

琵琶湖周辺では魚介類の化石をはじめ、200万年程前に生息した大型哺乳類などの痕跡も発見でき、琵琶湖の移り変わりをたどることができます。

と き) 12月13日(日)

集合) 京都市役所前 午前9時 解散) 同じ場所 午後 5時30分頃

コース) 午前: 琵琶湖博物館でミニ講義と展示見学。

午後: 野外観察会 野洲川流域を化石探訪。

ソワの足跡にも出会える!!  
化石発露体験もできる!

\*交通手段は、すべてマイクロバスとなります。

参加費) 大人5000円(交通費・入館料・講義料・保険雑費)

子供4000円(中学生以下)

定員) 20名

お申し込み締め切り) 12月 6日(日)

お申し込みの方に、持ち物、その他詳細をお伝えします。

フ  
イ  
ー  
ル  
ド  
ン  
サ  
イ  
エ  
テ  
イ  
ー  
5  
ペ  
ー  
ジ  
参  
照

## ■環境教育トレーナー養成セミナー98 「PLT指導者養成ワークショップ」

●日 時 12月12日(土)~13日(日)

1泊2日

●場 所 国立淡路少年自然の家

●内 容 PLTはアメリカをはじめ諸外国で普及している環境教育の副教材です。この教材を使い、体験を通した学び方を理解するワークショップです。

●対 象 環境教育に関心を持つ学校教育や社会教育の指導者。教員、学生など。

●定 員 30名(先着順)

●参加費 16,000円(学生14,000円) 1泊4食、テキスト、保険料含む

●申込法 下記まで電話またはファクスでお申し込みください。

## ■科学映画会

### 「富士山麓 野鳥たちの詩」

●日 時 12月12日(土)14:00から1回

12月13日(日)11:00からと

14:00からの2回(44分)

●場 所 自然史博物館 講堂

●参加費 無料(入館料が必要)

●申込法 当日受付

●問合わせ 大阪市立自然史博物館

申し込 〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-23 TEL.06-697-6221

●問合わせ (財)京都ユースホテル協

申し込 会・環境教育事業部

〒616-8191 京都市右京区太

秦中山町29 京都市宇多野

YH内 TEL.075-462-9185

FAX.075-462-2289

## 関西ECOMAIL

第47号 1998年12月3日発行

編集 日本環境教育学会 関西支部 世話人会 広報委員会

発行 日本環境教育学会 関西支部

事務局 大阪教育大学 環境科学教育研究室(鈴木善次研究室)気付

☎582-8582 柏原市旭ヶ丘4丁目698-1

(☎&FAX 0729-78-3381[直通])

第48号は 1998年2月3日発行予定 原稿必着期限1月24日

E-mail: BYI01151@nifty.ne.jp (8)

